

平成31年度（2019年度） 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

| 目指す学校像 | 本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、自主性・自立性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる地域のリーダーとなる人材を育成する。 | | |
|--|--|---|------|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p>※平成30年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて、学力向上推進委員会を組織し、研究リーダーを中心に校内研修会・校内授業観察・近隣小中学校の授業視察・校外の研修会への参加等、様々な取組を実施してきた。その結果、教員の授業に対する意識が向上し、生徒達が生き生きと授業に取り組む姿が見られた。学力が向上したという成果を出す段階にはまだ時間がかりそうである。 教育課程編成においては、昨年度の検討を踏まえ、今後の新教育課程に繋がる編成ができた。また、普段の授業において、ほとんど全ての教員がマナーを重視した指導を行い、その成果が出ている。 昨年度末に内規を見直し、今年度においても多くの先生から内規に関しての意見を出してもらった。年度反省において検討を加える予定である。 出張・年休時の振替は100%実施できた。また、チャイムで始まりチャイムで終わるという毎授業時間の確保は全ての教員が実行している。移動教室の際、生徒達は時間に遅れず移動することができ、授業時間を大切にしている意識が育っている。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上・授業力向上にむけての試みを実施してきたが、生徒の学力向上と現れてくるには、来年度も検討を重ねながら、継続して実施していく必要がある。 学習意欲を向上させることが本校生には、最も必要なことであろう。生活習慣の改善や家庭教育の充実を抜きにすれば、生徒の学習意欲は大きく向上することはない。他の校務分掌と連携して、生徒の学習意欲向上に努めたい。 <p>進路指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望に即した進路ガイダンス等の行事・面接・課外指導が実施できた。 進路決定率は、100%を達成できた。 インターンシップは、37事業所において105人の生徒が参加し、貴重な学びの場となった。 求人対応や関係部署との連携などが良くできた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員間の連携をより一層高められるようにしたい。 就職に関して、企業見学や選考のあり方がさらにより良くなるための方策を模索したい。 進路情報の生徒へのより迅速な通知と周知徹底をはかりたい。 生徒個々に応じたよりきめ細やかな指導をはかりたい。 <p>生徒指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶に関しては立哨等で呼びかけているが、呼びかけても返ってこない生徒もいた。 服装の段階的指導で生徒指導部長注意になった生徒が1名いた。頭髪指導に関しては、学年ごとに程度の差がありやり難い点があった。 遅刻の段階的指導で生徒指導部長注意になった生徒が2名いた。教室に8:35までに入室し、SHRを受けることができなければ遅刻になるという認識が薄い生徒・職員がいる。 予定された講話や講習会を実施し、集会等で交通事故に注意することを呼び掛けた。原付バイクや自転車の事故が多かった。交通ルール、マナーに関する苦情が多かった。 計画的にカウンセリングが実施できた。カウンセリングの内容や今後の方針が詳細に報告された。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別指導における器物破損の取り扱いや、指導上前歴についての捉えを見直す。 カーディガンの色や形、職員トイレの生徒の利用、上履きのかかとふみ対策等の検討が必要ではないか。 スマホ・ケータイ安全教室を合格者説明会だけでなく、全校生徒対象での実施も検討する。各HRでも道徳などの時間を活用して、トラブルのないネット利用を確認する。 <p>特別活動部</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事に関しては、各行事ごとに設定した目標を達成することができた。 部活動に関しては、部員数が減少傾向にある。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の見直しを図るとともに部活動の部員数確保と活性化を目指したい。 <p>環境整備部</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室のワックスがけやモップ交換は、事務、担任と連携しスムーズに実施できた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみの分別の徹底や中庭にごみやガムなどを捨てないように指導していきたい。 各トイレの洋式化を求めていきたい。 <p>図書部</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書、オリエンテーション、蔵書点検、環境整備、リクエストボックスの設置等を実施した。 第42回生徒図書委員中央研修会に開催校として参加した。その際図書委員の生徒が献身的に与えられた仕事に従事した。 図書室を授業で使用する機会が増えた。また図書室に足を運ぶ生徒も若干であるが増えた。 新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行った。 生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付け購入した。 生徒発行の「図書室だより」を年間3回発行した。 図書室内装飾品の作成を通し、図書委員会活動を活性化した。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習活動・読書活動として図書室利用が徐々に増えてが更に主体的・意欲的な学習活動・読書活動が充実するような工夫を図る。 図書委員会をさらに有効に活用し、生徒自身の主体的な取り組みを促すよう指導する。 夏休み中に実施予定の県西地区生徒図書委員研修会の建設的な運営に図書部をあげて徹する。 <p>渉外部</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年はPTA総会出席率が42%であったが、今年は47.5%で総会出席者が増えた。 例年と同じように保護者の協力を得て、広報誌「鬼怒」を発行することができた。 昨年は参加者が少なくPTA研修旅行が中止になったが、31名の保護者の参加のもと充実した研修旅行を実施することができた。 スクールバスの運行において、安心・安全かつ円滑な運行を実施することができた。 さわやかマナーアップ、鬼朋等の学校行事において保護者の参加・協力を得ることができた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA総会の出席率を50%以上の出席率を目指したい。 学校とPTA会員との情報交換を密に行い、共通理解を図り、さらに協力体制を確立する。 スクールバスの継続・安心安全な運行に尽力する。 県西地区高等学校PTA連合会事務局として円滑な運営体制を築く。 <p>保健厚生部</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健室運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等、十分に対応することができた。 各種検診は効率的に全生徒が実施できた。 性教育講話は生徒参加型（アクティブラーニング）の組立てにより、分かりやすい内容であった。 防災避難訓練が滞りなく実施できた。また、ストーブ講習会を実施し、防火安全指導が行なえた。 放射線測定（毎月）・水質検査・室内環境検査等、昨年度より箇所を増やして実施することができた。 AEDを1台増設した。（本館玄関） <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 養護教諭が不在のときの保健室利用の確立。 購買での購入率が高くなってきている。実績を鑑みて内容、販売量等、業者と協議したい。 防災避難訓練において、生徒の危機感が希薄である。実施内容について検討したい。 本館棟の3階or4階に担架を1台設置したい。 | 生徒の個人的資質の向上に努める。 | 挨拶の奨励、遅刻・欠席の防止等、基本的生活習慣の徹底やコミュニケーション能力の向上 | B |
| | | 授業・部活・行事など学校教育活動全体を通して生徒の自己肯定感、達成感や学校帰属意識の向上 | B |
| | 専門的知識の育成に努める。 | 主体的・対話的で深い学びのある授業を重視した授業改善と、分かる授業の展開による学力の向上 | B |
| | | 商業に関する専門的知識の修得と実践的・体験的な学習の充実 | B |
| | 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 | 募集人員の定数確保とキャリア教育充実による進路実現100% | A |
| | | 出前授業やHPを活用した教育活動の効果的な情報発信 | A |
| | | ボランティア活動や地域でのビジネス活動の充実 | A |
| | 生徒一人ひとりの学力や個性を伸ばす学校づくりに努める。 | 指導方針に関する職員全員の共通理解・実践（同じベクトル）、モチベーションの向上、風通しの良い職場 | B |
| | | 組織マネジメントを推進し、学年会、教科会、運営委員会、職員会議での活発な意見交換による学校経営・業務の改善 | B |
| | 安心・安全な学校づくりに努める。 | いじめ・体罰・災害等の防止や迅速な対応 | A |
| | | HR、授業、二者面談や三者面談を活用しての生徒一人ひとりに対する丁寧な理解 | A |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度（学期）への主な課題 |
|----------|--|--|----|--|
| 国語 | 継続的な理解力や表現力・基礎的な知識等の習得を重視した学習体制を敷く。 | 授業内容の理解度をノートや課題集の点検を用いて評価する。 | A | 【達成状況】 ○単元や定期考査ごとのノート点検、長期休暇ごとの課題の点検を行ったことで、授業を受ける態度が向上した。またそのことで教師側に関心・意欲・態度を高い精度で評価する必要性が出てきた。 ○授業前に順番を決めてスピーチを実施したことにより、話す・聞く力が向上し、人前で表現する意欲を育てることができた。 ○短歌・連歌・標語の創作を行ったことで、日本の伝統的な言語文化を学んだり、ユーモラスな表現を試行錯誤しながら作ったりしたことにより、言語感覚を磨くことができた。 ○災害復旧の最中での漢字検定実施では、教職員が実施のノウハウを身に付けられた。 【次年度の課題】 ○言葉の意味を知るなど、基礎基本を充実させ、漢字検定合格率の向上を目指したい。 ○作品の感想を述べあう等、生徒の自主的参加型の授業をより多く企画・実行したい。 ○生徒が自分の国語力が向上したことを実感できる評価方法について考案したい。 |
| | | 長期休業中においても自主的に国語力を伸長する機会を設ける。 | B | |
| | 場に応じた適切な表現の体験を通して、自己を見つめようとする意欲の向上を図る。 | スピーチや語り合う機会を設けて、自分の考えを創造する機会を設ける。 | B | |
| | | 俳句や短歌の創作等、書く行為によって、自分の心と向き合う機会を設ける。 | B | |
| | 漢字検定を積極的に受検させ、将来の進路に活かす。 | 課外や課題プリント配布などにより、効率的な学習のサポートを行う。 | B | |
| 社会 | 時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。 | 視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。 | A | 【達成状況】 ○実生活とリンクする資料を活用し、生徒の興味・関心を惹くような授業展開をおこなった。 ○授業内容の確認プリントを活用したり、ノート点検をこまめに実施したりして、授業への集中・基礎学力の定着をはかるよう努めた。 ○課題探求と対話を中心とする授業実践をおこなった。 【次年度の課題】 ○より一層、教材および指導法の充実を図りたい。 |
| | 教科の基礎学力の定着を図る。 | 授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の習得に努める。 | B | |
| 数学 | 教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。 | 多くの例題を通し、基礎基本及び発展的学習において体験的に理解できるように工夫する。 | A | 【達成状況】 ○中学校の基本事項の復習から、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。 ○中学校の内容の確認プリントを活用したり、課題をこまめに実施したりして、授業への集中・基礎学力の定着をはかるよう努めた。 ○質問応答をまめにおこなった。 【次年度の課題】 ○計算力の強化 ○図形・関数等における、基礎事項を十分に習熟させることが引き続きの課題である。 |
| | | 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。 | A | |
| | | 各定期考査で、基本的な内容の充実に加え、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。 | B | |
| 理科 | 基礎的な学力の向上を図る。 | 生徒とのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外等のサポートを実施する。 | B | 【達成状況】 ○毎時間、質問を投げかけ、数名の生徒に答えてもらう時間を設けている。慣れてくれば、自然に答えが口に出せるようになってきた。机間指導を行いながら、適切に声かけをするよう心がけ、生徒から答えを引き出すことができた。 ○授業の中や、考査題の中に身近な理科現象を取り上げ、授業で学んだことがらと関連づけて説明させたり、現象が起こる理由を考えたりする活動を行った。 ○10月の水害の影響で、化学実験室の床が盛り上がり、使用できなくなった。よって、今年度は化学実験室は使用できない。物理実験室で実施可能な実験を行ったり、視聴覚教材を利用した。 【次年度の課題】 ○実験室の整備ができてきたところではあるが、道半ばで水害に遭い、振出しに戻ってしまった。次年度以降も限られた予算内で少しずつ整備を進める予定である。 |
| | 科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力を身につける。 | 日常生活にあふれる理科現象や身近な物質を取りあげ、科学全般に対して関心を持たせる授業展開に努める。 | A | |
| | 物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。 | 計画的に実験室の備品等の整備を進め、教室内の授業以外に実験室や屋外を利用しての実験・実習の授業を取り入れる。 | B | |
| 教科 体育 | 体力の向上と各種運動技能の習得に努める。 | 体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。 | B | 【達成状況】 体育 ○体力テストA及びBの割合は51.8%と目標の50%を達成することができた。昨年の47.4%から4.4%上昇した。 ○卒業課題については補習等を行い、目標を概ね達成することができた。 ○授業において単元の時数を見直し、クラスマッチ種目を練習する時間を確保できた。意識付けや意欲の向上につながったと考える。 ○実技研修として指導の仕方など適宜話し合いや共通理解を図った。 保健 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。生徒の興味を引き、具体的に内容を理解し、思考・判断することに繋がったと感じる。 【次年度の課題】 ○体力テストのA及びBの割合のボーダーを50%として、生徒の実態に合った体力を高める運動などの充実や生徒の意識を高めていきたい。 ○ルールの周知や練習時期の検討など、特活部とより連携しながら学校行事の成功と運動への意欲の向上を図る。 |
| | できる喜びを実感できる授業実践に努める。 | 卒業課題の合格率80%以上を目指す。 | B | |
| | 体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。 | 授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。 | A | |
| | よりよい体育授業の実践を図る。 | 担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。 | C | |
| 保健 | 生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。 | 最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。 | B | |
| 英語 | 基礎学力の向上に努める。 | 単元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力強化を目指す。 | B | 【達成状況】 ○小テストやQuizletを活用して、基礎定着を図ることができつつある。 ○学年で共通の教材を使うことによって、基礎学力の向上に努めた。 ○提出物のチェックにより、生徒にきめ細かい指導を行うことができた。 ○1学年の全商英検3級以上の取得率が65.7%、また3学年で1級合格を出すことができた。 ○パフォーマンステストの実施により、コミュニケーション能力が向上しつつある。 ○ペアワーク・グループワークに対する取組は良好である。 【次年度の課題】 ○全商英検の対策をもっと計画的に行いたい。特に2級の合格者数を増やすには、語彙力や基礎的な読解力の大幅なアップが必要である。 ○スピーキング力の向上に努めたい。 |
| | 資格取得のための指導に努める。 | 全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。 | A | |
| | 実践的コミュニケーション能力の向上に努める。 | A L T との T T などを活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。 | B | |
| | | ペアワーク・グループワーク等を実施し、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。 | B | |
| 家庭 | 基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。 | 実験・実習を取り入れ、具体的にわかりやすい授業を展開する。 | A | 【達成状況】 ○学習ノート等の提出物は単元ごとや実習終了後に点検し、未提出がないよう指導することができた。 ○きゅうりの半月切りの実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○調理実習を通して、生徒は意欲的に取り組み、コミュニケーションが深まり、協調性や自主性を養い、生活の向上を図るための基礎的な技能を身につけさせることができた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善向上に取り組もうとする姿が約8割の生徒に見られた。 【次年度の課題】 ○進度の遅れが生じないように、指導内容を検討し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図りたい。 |
| | | プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。 | B | |
| | | 実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。 | A | |
| | 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。 | A | |
| 商業 | 学力・指導力の向上を図る。 | 学力・指導力向上のために日々の授業を大切に、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。 | B | ○「学力の向上を図る。」の目標において、1年生への基礎科目の定着が図れ、学習意欲喚起や検定試験合格率は例年並みであった。しかし、上級資格取得に関しては、試験問題の難易度が増し、事前に設定した目標上位級を取得することが難しくなっている。 ○「商業教育の広報活動に努める。」の目標については、十分にその効果が浸透していると感じることが多々あった。出前授業の活用を進路学習として中学側で利用していただくことが良い効果を招いているように感じている。今後も継続して実践していきたい。地元商工会議所・結城市役所との連携の継続、特に、とうむぎアイスの開発は、広範囲で各事業所とも連携することができ、地域のPRにもつながった。 ○ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身に付けさせるための指導は各科目の特性を生かして行われている。 【次年度の課題】 ○さらなる指導力向上のための工夫改善を行って、授業の充実を図りたい。 ○商業科における各学年の資格取得目標級については、検定試験の難易度や生徒の実態に応じて、検討吟味を図りたい。 ○地域や事業社との連携をさらに深めるための活動や出前授業の内容の充実を図りたい。 |
| | | 科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。 | B | |
| | 商業教育の広報活動に努める。 | 地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解を深めるために体験入学や出前授業を実施する。 | A | |
| | ビジネスにおける実践力の育成を図る。 | 総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。 | B | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度（学期）への主な課題 |
|---------------------------------|--|--|----|---|
| 教務 | 教員の指導力および生徒の学力向上を図る。 | 授業の工夫改善をし、主体的・対話的で自ら考え、学ぶことによる分かる授業を行う。 | B | 【達成状況】 ○教科の特性を活かし、工夫改善をした授業が行われている。 ○相互授業参観を実施したことにより、授業改善のヒントが得られた。 ○新学習指導要領を踏まえ、本校の生徒のための教育課程の編成に向けて各教科から原案を出してもらった。 ○成績不振者への課外等が放課後や長期休業中に実施された。 ○転退学者が13人になるが学業が理由の生徒は少ない。 ○内規の検討を行えなかった。 ○振替やもらい授業が多く、自習は少なかった。 ○水害の被害も受けたが、適切な処置でしっかりと授業時間確保ができたと思う ○個人情報等の保護に対する教員の意識が向上している。 ○ホームページの構成が変わり見やすくなった。更新が頻繁に行われるようになった。 ○道徳・道徳プラスの授業については目標を概ね達成できた。 |
| | | 教員の指導力向上のために、授業の相互参観期間を設け、校内外研修の機会を活用する。 | B | |
| | 教育課程の編成に努める。 | 専門分野の知識やビジネス活動体験を通し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。 | B | |
| | 学習意欲の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。 | 成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と補習や課外を計画的に行う。 | B | |
| | 内規の検討を行う。 | 本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。 | B | |
| | 授業時間の確保に努める。 | 年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。 | A | |
| | 情報の保護・管理に努める。 | 手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。 | A | |
| | HPの適正な運営と教育活動の公表に努める。 | ガイドラインの作成とそれに沿ったコンテンツ委員会の活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。 | A | |
| | 道徳及び道徳プラスでの協働的学びを通し、課題の発見及び解決策を導く力を身に付けさせる。 | 生徒が自己有用感・達成感を味わえるような学習内容を展開する。 | B | |
| 生徒指導 | 生徒全員に朝の挨拶をさせる | 登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。 | A | 【達成状況】 ○頭髪・服装指導において学年間の差がなくなって、全体で指導する雰囲気が出てきた。 ○遅刻者数は減少傾向にある。欠席者数は長欠の生徒分が含まれるので、判断しにくい。 ○原付バイク安全運転講習会以外の予定された講話や講習会を実施し、集会等で交通事故に注意することを呼び掛けた。原付や自転車の事故が多かった。交通マナーに関する苦情が多かった。 ○計画的にカウンセリングが実施できたが、今年度は回数が大きく減らされてしまった。本当に必要な生徒が利用できていない現状がある。 |
| | 服装・頭髪等について校則を守らせる | 登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。 | A | |
| | 遅刻者数を大幅に減らす | 8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。 | B | |
| | 交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ | 校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。 | B | |
| | 問題行動を未然に防ぐ | 全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。 | B | |
| | 教育相談活動の充実 | 教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。 | A | |
| 特別活動 | 生徒会・HR活動の活性化につとめる。 | 生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。 | A | 【達成状況】 ○生徒会の活動を中心に学校行事の運営を図ることはできた。 ○部活動への入部者の増加は期待通りにはいかなかった。反面、好成績を収めてくれた部もあり今後に期待したい。 ○今年度は各行事が例年と変わったことで委員会の活動をうまく活用できなかった部分があった。 |
| | 部活動加入率50%を目標とし、年間を通してのその維持に努める。 | 各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。 | B | |
| | | 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。 | B | |
| 体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。 | 委員会の生徒を中心とした活動を活発化させることで、学校行事の充実を図る。 | B | | |
| 進路指導 | 進路について理解を深め、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。 | 年次に応じた進路ガイダンスを実施し、進路意識の高揚を図る。 | B | 【達成状況】 ○全学年、進路ガイダンス等を前年踏襲だけでなく内容を見直しながら実施できた。 ○インターンシップは、42事業所に94名が参加し進路に対する意識を高めることができた。 ○会社見学・オープンキャンパスへも積極的な参加を促すことができた。 ○体育館での全体指導（3学年）、クラスでの進路指導等に「進路の手引き」を活用できた。 ○学校説明会や企業に職員が向かい情報収集に努め、生徒へ情報を提供できた。 ○進路指導室内のレイアウト等を見直し、生徒や職員が出入りしやすい環境を整えた。 |
| | | インターンシップや会社見学、各学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を呼びかけ、入社・入学後のミスマッチが起こらないように努める。 | B | |
| | | 「進路の手引き」を発行し、希望進路の実現に活用させる。 | B | |
| | 進路に関する情報提供を充実する。 | 大学・短大・専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、情報収集に努め、生徒に的確な情報を提供する。 | B | |
| 進路指導室及び進路資料室の効果的な活用を目指す。 | 生徒・教員・保護者などが気軽に足を運び、資料を閲覧したり相談できる、開かれた進路室の雰囲気作りに努める。 | A | | |
| 環境整備 | 清潔な環境を目指す姿勢を育てる。 | 教室のワックス塗布やモップの交換を通して、生徒の美化意識の向上に努める。 | A | 【達成状況】 ○ワックス塗布やモップ交換では、生徒が意欲的に参加し、また委員長・副委員長が自主的に下級生に作業手順をレクチャーしてくれたことで、効率よく作業を遂行することができた。 ○校内美化については、技術員の方々がボイ捨て禁止の警告板を作成くださったおかげで、生徒一人一人に清潔感のある学校像を考えさせる機会を与えることができた。 ○校外清掃では全員が精力的にゴミ拾いに参加した。 |
| | | 効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。 | B | |
| | | 清掃道具を速やかに充実させ、生徒が意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。 | B | |
| | 環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。 | より清潔できれいな学校となるための中・長期的な計画を、生徒ともに模索する。 | B | |
| 保健厚生 | 生徒の心身の健康増進を図る。 | 保健室の効果的な運営に努める。 | B | 【達成状況】 ○保健室運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等、十分に対応することができた。 ○各種検診は効率的に全生徒が実施できた。 ○10月予定にしていた性教育講話が浸水被害により中止となった。12/16に茨城県人権擁護委員連合会の協力により「デートDV」の講演会を1学年で実施した。 ○防災避難訓練が滞りなく実施できた。ストーブ講習会を実施し、防火安全指導を行った。 ○放射線測定・水質検査・室内環境検査等、予定通り実施することができた。 ○AEDを2台増設した（職員室、実習棟）。計4台の設置となった。 ○本館棟の3階に担架を1台設置。カーテンクリーニング実施。 |
| | | 諸検診の効果的な実施に努める。 | A | |
| | | 専門家による性教育を実施する。 | B | |
| | 学校生活の安全教育に努める。 | 防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。 | B | |
| | 学習環境を整備する。 | エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。 | B | |
| 水質検査および室内環境検査等を実施する。 | A | | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度（学期）への主な課題 | |
|--|---|---|---|---|--|
| 校務分掌 | 図書 | 生徒の読書センターや情報センターとして図書室環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援したり、情報収集・選択・活用能力を育成する。 | わかりやすい蔵書の配置・親しみやすく内容が充実した装飾にも努め、図書室を利用しやすい環境に努める。 | B | 【達成状況】 ○図書の新し出し、オリエンテーション、蔵書点検、環境整備、リクエストボックスの回収等が滞りなく実施できた。 ○図書室を授業で使用する機会が増えた。また図書室に足を運ぶ生徒も若干であるが増えた。 ○新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行った。 ○生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付け購入した。 ○生徒発行の「図書室だより」を年間3回発行した。 ○図書室内装飾品の作成を通じ、図書委員会活動が活性化した。 ○8月21日（火）に実施された本校担当の県西部地区生徒図書委員研修会を無事終えることができた。ビブリオバトルがたいへん盛り上がった。 ○第43回生徒図書委員中央研修会に2名の生徒を参加し、全国ビブリオバトル大会茨城県予戦会で本校生徒が4位に入賞ができた。 【次年度の課題】 ○図書委員として活発に活動する生徒あまり活発に活動しない生徒がおり、その点の改善策を考えたい。 ○図書館の独創的な装飾を考えたい。 |
| | | 読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。 | 1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。 | B | |
| | | | 新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行う。 | B | |
| | | | 生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。 | B | |
| | | | 生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対する関心を高める。 | B | |
| | 図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。 | 蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員活動の主体性を図る。 | B | | |
| 渉外 | PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。 | PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。 | B | 【達成状況】 ○PTA総会の出席率は前年（47.5%）よりやや少なく、46.5%であった。 ○PTA研修旅行が実施できなかったため、来年は必ず実施し、PTA会員同士の交流を深めたい。 ○例年通り、教職員・保護者・生徒の協力を得て、PTA広報誌「鬼怒」を発行することができた。 ○PTA支部研修会等での、保護者同士や職員との情報交換の機会が少なかった。 ○スクールバスの安心・安全な運行を実施することができた。 ○県西高P連事務局として諸会議・総会・PTA指導者研修会等を予定通り実施し、PTA役員の協力のもと、円滑な運営を図ることができた。 【次年度の課題】 ○PTA総会の出席率を50%程度を目標に参加率を高め、情報の共有・相互理解に努めるようにする。 またホームページやメール等で情報を発信し、保護者の学校への関心・協力体制をもう少し高めていきたい。 ○文化祭やさわやかマナーアップ運動等の学校行事への積極的な保護者の参加を促す。 ○50周年事業に向けて、組織の活性化・強化につとめ、準備を進めていく。 ○スクールバスの今後の運行が継続されるように努める。 | |
| | | 学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。 | B | | |
| | | 会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。 | C | | |
| | | PTA支部研修会を実施し、保護者・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。 | B | | |
| | 鬼朋同窓会の組織強化に努める。 | 同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、同窓生の連帯感を深める。 | B | | |
| | スクールバスの円滑な運行をはかる。 | スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。 | B | | |
| 県西部地区高等学校PTA連合会事務局として円滑な運営体制を築く。 | 県西部地区高等学校PTA連合会事務局として校内での協力体制を築き、円滑に運営できるようにする。 | A | | | |
| 一学年 | 挨拶の励行と礼節をわきまえた行動をする。 | コミュニケーションの入口である挨拶を積極的に行くと同時に、適切な言葉遣い等を使えるようにする。 | B | 【達成状況】 ○挨拶や適切な言葉遣いは概ねできていたと思うが、学期が進むにつれて、特定の生徒ではあるが、教員に対して不適切な言葉遣いや失礼な態度で接していることがあった。 ○欠席遅刻早退については、1学期は全体としてかなり少ない数であったが、2学期後半から3学期にかけて、休みくせや遅刻早退する生徒が増えてしまった。 ○授業態度は概ね良好で、授業場面におけるスマホの使用についてもルールを守れていたが、清掃時やSHR時に使用している生徒が少なからずいた。 ○学校行事や学年行事の際の欠席者はほとんどいなかっただけでなく、積極的な姿勢で参加できていたと思う。それに対して、休日の資格試験日に、欠席する生徒を毎回数名出してしまったことがとても残念で反省すべき点だと考えている。 【次年度への課題】 ○清掃の在り方。掃除場所に対して、生徒の人数が多すぎてやや飽和状態。サボったりスマホをいじっている生徒の指導まではなかなか手が回りにくい。 ○欠席や遅刻連絡の徹底。 ○資格試験の欠席遅刻者をゼロに。欠席遅刻した生徒に対して、口頭による注意だけでなく二度と繰り返さないような適切な指導の模索。 ○2年進級時、バランスのよいクラス編成の実施と孤立してしまった生徒が出た場合の心的サポート。成績や生活態度のみならず、人間関係にも配慮したクラス編成ができるように、個人面談など、様々な方法で情報を収集する。 | |
| | 欠席・遅刻・早退を増やさず、時間厳守の意識をもって生活する。 | まず、休まず遅刻せずに登校をさせ、学校生活においても、常に時間に注意を払い、移動教室等の授業において、ゆとりのある行動を心がける。 | C | | |
| | 鬼怒商業の生徒である自覚と責任をもち、規範意識を高める。 | 本校のルールをしっかりと理解し、校外外において、地域の方々から信頼される服装及び頭髪を維持し、スマートフォン使用に関するマナー指導も徹底し、規範意識の向上に努める。 | C | | |
| | 日頃の授業は落ち着いた態度で受け、学校行事には積極的に参加をする。 | 適切な態度で授業を受け、基礎学力の定着を図ると共に、学校行事や資格取得には積極的に取り組む。 | A | | |
| | 卒業後の進路を早い段階から意識をさせ、計画的な自己実現を促す。 | 適切な時期に適切な内容で進路ガイダンスを実施することで、将来を見据えた計画的な学習活動ができる環境を整える。 | B | | |
| | 二年 | 挨拶や他人を思いやる気持ちを持って職員と生徒、生徒同士のコミュニケーションを実践する。 | 最も早く、かつ簡単にできるコミュニケーションの手段として挨拶を励行する。さらに相手の立場に立ったコミュニケーションを実践する。 | | A |
| 集団生活の中で時間や約束を守ることの大切さを学ぶ。 | | 時間や約束を守るといことは、社会人としての最低限度の必須項目である。その必須項目を実践させることによって、誰からも信頼される人物を育成する。 | B | | |
| ルールやマナーの意義を考え行動する。 | | 集団生活の中ではなゼルールやマナーがあるのか、その意味を理解して行動させる。他人に迷惑をかけない。 | B | | |
| 専門高校の特色を生かした授業の実践 | | 普通科では学ぶことのできない専門科目の特徴であるスモールステップを積み重ねる学習を実践し、結果を残すことによって生徒に自信を持たせる。 | C | | |
| 生徒が自分の適性を把握し、その適性に合った進路が実現できるようサポートする。 | | 自分の適性を理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実践する。 | B | | |
| 三学年 | 社会人となることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる。 | 鬼怒商の最高学年としてのプライドを意識し、挨拶・服装・言葉遣い等模範生となるような指導をする。これまで通り家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず、学年一丸となって指導を行う。 | B | 【達成状況】 ○挨拶は生徒自ら率先してできた。服装も良好であった。言葉遣いなどは不十分であった。 ○進路指導は、進路指導部の力添えが大きかった。進路指導部と学年の連携がよく、生徒に手厚い指導ができた。 ○進路指導の取り組みは毎月のようにできた。 ○チャイムtoチャイムはできる授業とできない授業があったと思う。 ○検定に関して、商業科は目標を大幅に下回ったが、3種目合格者3名が達成できた。 また、情報ビジネス科は、過去例をみない3種目合格者（33名）の数であり、十分な結果が出せた。 ○上級資格は未達成に終わった。 ○検定指導がすべてではないが、1月の簿記検定試験に商業科全員が向かったことで、マルチメディア、課題研究の授業が過去の授業風景と比べものにならないほどの取り組みであった。また、進路決定後の気のゆるみを防ぐことができた。 ○校務支援システム「教助」を活用したことで、調査書、要録、証明書関係が効率化された。 【次年度への課題】 ○進路ニーズの多様化（契約社員、縁故、バイト先にそのまま就職、センター試験、一般入試等）に対応できる教員側の情報共有を進めたい。 ○主体的、対話的で深い学びができる工夫を盛り込んだ授業を各教科でさらに取り入れた。 | |
| | 情報教育の集大成として、自分の意志で進路を決定し、進路決定率100%を実現させる。 | これまでの進路ガイダンス・面談等を通じて得た自己の適性に合う進路を選択し、決定に導くための進路関係の行事を毎月実施する。 | B | | |
| | 授業環境の向上と生徒全員の卒業を実現させる。 | 高校生活が充実して終わるためには、残り少ない授業に「チャイムで始まりチャイムで終わる」ことを徹底させ臨ませる。 | B | | |
| | 商業科の生徒が、最後まで各種検定試験に臨む意識を盛り上げる。 | 進路決定で満足せず卒業間際まで各自が目標とする各種検定試験に臨み、合格率80%を実現する。 | C | | |
| | 情報ビジネス科の特徴を活かした高度資格取得の目標を達成させる。 | 全商1級3種目合格者20名、および高度資格（日商簿記2級、ITバースポーツ、全商英語1級）各3名の合格 | B | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分